

（午後3時30分 再開）

○議長（中本正人君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番12、5番 坂口君。

〔5番（坂口親宏君）登壇〕

○5番（坂口親宏君）皆さん、こんにちは。坂口親宏です。

きょうは、いつもあまり身なりを良くしていないんですけれども、見てくれあまり気にしていないんですけれども、家で一番いい背広、スーツを着込んでやってまいりました。誰が気づいてくれるのかなと思っていましたら、午後になりまして、副市長が「きょうはぱりっとしとるやないか」と言っていました。大変うれしゅうございました。きょうは一番の背広、いわゆる一張羅を着込んでやってまいりました。

といいますのも、2月22日、前畑秀子の朝ドラ誘致の話で、岐阜市議会議員、名古屋の市議会議員が橋本市に来訪をしていただきまして、私どもと意見交換をさせていただきました。3月3日、岩本たかひろ議員が名古屋市議会で前畑秀子の朝ドラ誘致の話をしようという、そんな代表質問をされております。これを受けまして、信田議員も岐阜でも市議会でおそらく一般質問をされております。

私も、進捗状況をそれではお尋ねしますというふうに申し上げますと、現在流れておりますユーストリーム、あるいは、名古屋の市議会では本会議が今、開催中でございますので、おそらく録画中継、ユーチューブでご覧になっていただいているんじゃないかと思えます。岐阜、そして、名古屋でそれぞれこの

橋本市議会の本会議の中継を、固唾をのんで見守っている。といいますのも、今回、2項目め、朝ドラ誘致についての進捗状況をたゞしますので、行政側の答えを、どのような答弁をされるのかというところ、息をのみながら見ているというところだと思います。

実は、私、夢がありまして、議員としてのちっぽけな夢なんですけれども、いつもこうやって登壇しまして、行政側の皆さんからご答弁をいただきますね。そして、議長にこうただされます。「5番 坂口君、再質問はありませんか」と。私、ちっぽけな夢なんですけれども、一度でいいので、「議長、素晴らしいご答弁をいただきましたので、再質問は一切ございません」とお答えするのが、私の議員としてのちっぽけな夢なんです。きょうはその夢が叶いますかどうか。あすは新月で、夢が叶う日とされているんですが、きょうは1日早いので、夢が叶うかどうかというところなんですけれども、それはご答弁の内容にひとつ期待をしたいと思います。

きょうは、岐阜、名古屋でそれぞれこの本会議の中継、ご覧になっていただいていると思えます。その私の夢が叶いますと、皆さんお待ちかねの2項目めのご答弁、それ、恐らく夢が叶いますと15分後ぐらいになろうかと思えます。不本意ながら、満足なご答弁がいただけなかった場合には、おそらく、この後、40分から45分後ぐらいになるんじゃないかというふうに思えます。それだけの時間がかかるかもしれませんが、どうぞパソコンの前をお立ちにならずに、1項目めのオリンピック地域活性化についてのお話も、大変、議員としては興味深いお話だと思いますので、

よろしければ、お時間ありましたら、岐阜の皆さん、そして、名古屋の皆さん、1項目めのオリンピックのお話もおつき合いをいただけたらなというふうに思います。

何か皆さん、私の胸元に視線が感じられるんですけども、きょうは三途の川の渡し賃、六文銭を胸につけてやってまいりました。これ、別に、決死の覚悟で質問に立っているのではございません。きのう、同僚議員からも「真田丸」の話がありました。そして、明日も同じ会派の同僚メンバーから、「真田丸」についての、地域の活性化についての話があるかと思えます。

今、「真田丸」、おもしろいですよね。皆さん、見ていますか。2月28日、「調略」というおもしろい話がありました。ちなみに、経済部長から、きのうは、信州の上田で30%の視聴率を稼いだというようなお話がございました。これ、NHKの関係者の方がお話をされているんですから、確かな数字だと思います。九度山も30%行っていると思いますよ。この橋本市も日曜日の夜8時、飲食店から人が消えると聞いています。おそらく、30%は行かなくても二十数%の数字は稼いでいると思いますよ。

この1年間、「真田丸」を相手に橋本市はどのように過ごしていくのか、大変、議員としても興味深いものなんですけれども、「真田丸」、そして、NHKの朝ドラ、NHKの制作担当者に伺いますと、大河と朝ドラでは、NHKはこけるわけにはいかないんだとおっしゃっています。ですから、NHKも社運をかけての制作にあたっているということですね。

今、「あさが来た」もおもしろいですよね。2月22日から28日までの平均の視聴率が24.4%、ちなみに、「真田丸」も関西統計で17.4%の視聴率をとっています。これ、3番目のドラマの視聴率が14.9%ですから、NH

Kの大河と朝ドラでツートップをとっている、ワンツーをとっているという、これだけ社会的に大きい番組をNHKが制作しているということです。ですから、私が申し上げたいのは、単に1番組の制作だけではなく、ロケの誘致だけではなく、社会的に大きい番組を我々は誘致をしているんだというようなこと、ぜひ、ご理解をいただけたらなというふうに思います。

申しわけありません、皆さん、お疲れだと思えますけれども、2日目のこの時間の深い時間帯、本当にお疲れだと思えますけれども、しばらくおつき合いをいただきたいと思えます。

通告書なんですけれども、もう皆さん、お手元の通告書どおりです。簡単にご説明申し上げます。

1項目め、2020の東京の話です。そのオリンピック・パラリンピックの活用を地域活性化にしようという、活性化戦略について結びつけていただきたいという、こんなお願いごとです。

小さい項目で、一つ目。東京オリンピック・パラリンピックを活用した地域活性化推進首長連合、市長連合というのがあるんですが、本市は加盟していないんですよ。何でかという話を伺います。

それから、二つ目なんですけれども、本市はオリンピックを活用した地域活性化について、どのように取り組んでいくのかという話です。滝川クリステルが、おもてなしという言葉で、皆さんご存じだと思えますが、本市は2020の東京オリンピック、東京2020を前に、どのようなおもてなしをするのか伺います。

それから、三つ目なんですけれども、カルチュラル・オリンピック、いわゆる、既存のスポーツ施設などを活用したスポーツイベ

ント、本市はどのように考えていらっしゃるのか、そんなんせんでもええんちゃいますかと、あるいは、それを地域の活性化について結びつけていこうというのか、行政当局としてのお考えをお尋ねしたいと思います。

それから、4項目めなんです、大学生、社会人のキャンプの誘致に向けて、これまでの誘致活動の実績と進捗状況、成果はどのようですかという話を伺います。

それから、5番目ですけれども、ナショナルチームのキャンプ地、誘致活動、ロビー活動はどうなっていますかというお話です。

そして、6番目、そのナショナルチームのキャンプ地誘致、メリットとデメリットはどうでしょうか。そして、その経済効果は、社会的効果はどうですか、メリットはどうですかという話を伺います。

2020の東京オリンピック、千載一遇のチャンスだと思います。地域を活性化させるために、本市はどのように取り組んでいくのか。これ、皆さんね、私も手前みそで大変恐縮なんです、非常に良くできていまして、自分で褒めるのも何でございませぬけれども、小さい項目の2番目、これは、1番目、2番目、これ、リンクされていまして、2番目は1番目の布石になっていまして、3番目は2番目の布石、4番目は3番目の布石、そして、一番聞きたいのが、5番目と6番目になっております。ナショナルチームのキャンプ地誘致活動は、本市はどのように考えているのかというようにお話です。ちなみに、これ、橋本創生総合戦略に載っています。後でまた、お話を伺う機会があるかもしれませんけれども、文言として、誘致をしますと橋本市はもう掲げていらっしゃるんですね。ですから、私は今回、別に新しい提案をしようとは思っておりません。創生総合戦略で掲げているナショナルチームの誘致活動、キャンプ地誘致、こ

れについての進捗はどのようですかというお話を単に聞くだけでございます。

それから、大きな項目、2項目め。岐阜の皆さん、そして、名古屋の皆さん、あと40分ほど、あるいは、それぐらいかかるかもそれません。前畑秀子の朝ドラ誘致、進捗状況、これからの指針などを伺ってまいります。

冒頭申し上げましたけれども、議員としての私の夢が叶いますかどうか、行政当局の皆さんの前向きなすばらしいご答弁を期待して、私の壇上からの質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（中本正人君）5番 坂口君の質問項目1、2020年東京オリンピック・パラリンピック活用地域活性化戦略に対する答弁を求めます。

企画部長。

〔企画部長（北山茂樹君）登壇〕

○企画部長（北山茂樹君）まず、一点目の、2020年東京オリンピック・パラリンピックを活用した地域活性化推進首長連合への加盟についてですが、現時点においては、本市は参加していません。平成27年4月9日付で、首長連合への呼びかけ人である新潟県三条市長から、本市市長宛てに参加案内がありました。この案内による首長連合の設立趣意として、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催をチャンスと捉え、開催までの短い期間の中で、地域の活性化に向けた具体的な取り組みを戦略的かつ効果的に実践していくとともに、各自治体の知恵と力を集結し、東京オリンピック・パラリンピックを強力に支援するとあり、この設立主義については、本市としても十分賛同できるものと考えています。

しかしながら、その時点において、この首長連合の活動がどのように具体的に地域活性化に役立つのか判然としていなかったこと、また、首長連合への加盟の呼びかけも、当初

は全国的な呼びかけではなく、特定の市町村に限られ、その後、随時受け付けられているという二点の理由により、参加を見送りました。

一方、本市は、昨年10月に橋本創生総合戦略を策定し、基本目標の一つを、橋本市への新しい人の流れをつくることとして、交流人口の増加を掲げています。この中で、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会開催にあたり、選手団のトレーニングキャンプ地誘致を行うなどスポーツツーリズムを推進していくこととしています。この総合戦略の趣旨に鑑み、本市としては、案内のあった昨年4月時点での参加は見送りましたが、今後、首長連合の活動を注視し、地域活性化への有効性を見極めながら参加を検討してまいりたいと考えます。

○議長（中本正人君）教育次長。

〔教育次長（坂本安弘君）登壇〕

○教育次長（坂本安弘君）次に、二点目のオリンピックを活用した地域活性化への取り組みについてですが、現在は特にオリンピックを活用した取り組みは行っておりませんが、和歌山市の秋葉山プールに、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプに、スイミングカナダチームの招致が決定したことにより、今後ますますナショナルチームのキャンプ地誘致が活気づくことと思われま

す。本市においても、紀の国わかやま国体の会場となった県立橋本体育館や橋本市運動公園多目的グラウンドを、ナショナルチームのキャンプ地として、誘致できるのか。また、あわせて、橋本ブランドの発信やシティーセールスなども、経済部と連携しながら検討してまいります。

次に、三点目の本市の既存スポーツ施設などを利活用して、スポーツコンベンション誘

致の意義と必要性の認識についてですが、本市には、平成27年に、紀の国和歌山国体のバレーボール競技の会場となった県立橋本体育館とサッカー競技の会場となった橋本市運動公園多目的グラウンドなどの施設があり、以前から、社会人や大学生などのスポーツ大会やスポーツキャンプの会場として利用されています。

紀の国わかやま国体など、県下での大きなイベントの開催を契機に、市内にシティーホテルも開業され、今後ますます利用されることを期待しています。

次に、4点目の現在までのスポーツ大会やキャンプの誘致活動の実施と成果については、本市のスポーツ施設を利用した、一般と大学生のスポーツ大会利用実績としまして、県立橋本体育館では、平成26年度は13件で、3,354人、27年度は、国体開催による利用者も含め、今年2月末日までに27件、1万8,194人の利用となっています。

また、スポーツ合宿の利用実績は、平成26年度は2件、290人、27年度は、1件、96人となっています。

次に、橋本運動公園多目的グラウンドの一般と大学生の利用実績については、平成26年度は14件、2,283人、平成27年度は国体開催による利用者も含め、2月末日までに18件、7,280人となっています。

次に、スポーツコミッションの現状についてお答えします。

平成26年6月橋本市議会定例会の18番議員の一般質問でも答弁していますが、平成26年3月に策定した橋本市スポーツ推進計画に、スポーツイベントを観光資源として捉え、「スポーツ＋観光」による連携組織、いわゆるスポーツコミッションの構築も視野に入れ、行政、スポーツ関係団体、観光団体、企業、地域との協働のもと、まちづくり施策と連動し

たスポーツ観光戦略を検討すると定めています。

昨年、和歌山県で開催された紀の国わかやま国体では、全国各地から選手・監督や応援・観覧者が多数橋本市を訪れ、行政、ボランティア、競技団体、企業などが連携して国体を成功に導きました。国体の開催を契機として、今後もスポーツコミッションの構築に取り組んでまいりたいと考えます。

次に、五点目のスポーツ推進計画に定めるスポーツ大会の誘致については、昨年開催された国体サッカー競技のプレイベントとして、なでしこサッカーリーグやバレーボールVチャレンジリーグなども行われました。今後も継続的な開催を働きかけるとともに、本市ホームページなどで、他の大会・キャンプ誘致に向けたスポーツ施設の情報発信に努めてまいります。

次に、ナショナルチームのキャンプ地誘致活動について、本市のスポーツ施設や宿泊施設の実情に即した競技種目やチーム規模になるかと思いますが、今後、調査研究をしてまいります。

最後に、六点目の、ナショナルチームのキャンプ地誘致に成功した場合のメリットですが、本市のPRをはじめ選手・監督や観覧者の宿泊や食費、交通などの消費拡大などが考えられる一方で、デメリットとしましては、ナショナルチームのキャンプ目的にあわせた競技会場の整備や宿泊施設の確保、受け入れ体制を整えるための人員配置などが考えられます。

また、経済効果については、現在のところ効果額として出せませんが、前段でも申し上げたとおり、選手・監督・観覧者の宿泊・交通・観光などの消費拡大につながるものと考えます。

教育効果については、レベルの高いスポー

ツ競技を間近で見られることによる児童・生徒のスポーツへの関心や競技レベルの向上などが期待できると考えます。

○議長（中本正人君）5番 坂口君、再質問ありますか。

5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）夢は叶わないから夢に終わるんでしょうかね。丁寧にお話をいただいたんですけども、大変恐縮ではございますけれども、てんこ盛りにて再質問をさせていただきます。岐阜、名古屋でご覧になっていらっしゃる皆さん、もうしばらくお待ちくださいませ。

冒頭、申し上げたんですけども、私の今回の質問の全ての集約は5項目め、6項目めにかかっております。また、後ほど聞いてまいりますけれども、社会人、大学生のキャンプ地誘致はなぜ必要なのか。それは実績がないと、なかなか即ナショナルチームのキャンプ地誘致というわけにはまいりません。

この間、上富田町に行ってまいりました。あと、上富田町はスポーツのまちで、今、まちおこしと上げているんですけども、既に4年後の東京五輪に向けまして、ラグビー、サッカーのキャンプ地の誘致を積極的に取り組んでいらっしゃいます。私が行ったときにも、社会人のチームが1チーム、サッカーのチームが1チーム、それから、大学生の野球のチームもありました。常に、大学、社会人とキャンプを張っているところです。

私が申し上げているのは、なかなか即、てんこ盛りというか、和歌山県から、あるいは、スポーツ団体から、本当にある日突然降ってくるような話ではないと思っています。ですから、社会人あるいは大学生のキャンプ地誘致を積極的に行って、そのオペレーションを、橋本市はぜひスムーズにできるようにしていただきたいと、そんな思いでこの質問を組み

立ててございます。

今、教育次長からも、社会的経済効果、それと、社会的効果、あるいは、教育効果のお話も頂戴したんですが、やはり、これは専門の部長さんにお話を伺いたいと思います。経済部長もおいでになっていらっしゃいますし、教育長もまだお話をしたそうにされていますので、教育の立場から、もし、ナショナルチームが誘致されてきた場合、子どもたちにどのような夢と希望を与えられるのか。そういうお話と、そして、具体的に経済効果、冒頭、申し上げましたでしょう、シティーセールス、あるいは、はしもとブランドの情報発信、2020東京というのは絶好の機会だというふうに申し上げています。既にもう350を超える団体が、いろいろな地域活性化のための施策を練っていらっしゃいます。橋本市は既にこの段階で出遅れています。このあたりは、経済部長としては、まずどのようにお考えなのか。

そして、続いて、手を挙げていただいて、教育長は、教育的効果からどのような見識を持っていらっしゃるのか、お二方、続けてご答弁をお願いいたします。

○議長（中本正人君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）議員言われますように、スポーツイベントとか、トップアスリートの方が来られて、その合宿とか、練習でも構わんと思うんですけど、来ていただいたときに、非常にやっぱりインパクト、対外的にもできるんじゃないかというふうには考えています。それに伴って、大勢のファンであったり、関係者が来られたときに、観光サービスメニューを提供して、スポーツと観光を結びつけていくことで地域の活性化が図れていくと思います。ただ、橋本市にそれだけ充実したスポーツ施設が全て整っておるかという、決してそうではないように感じており

ます。これはやっぱり、橋本市単独ではなくて、周辺の自治体と連携しながらスポーツ施設への誘致というのにも必要ではないかというふうに考えています。

私、考えるには、必ずしもそういったスポーツ施設がないとスポーツツーリズムではないというふうには考えていません。といいますのは、せんだって、メガスポーツ、イオンのグループ関係なんですけど、メガスポーツと連携しまして、橋本歴史ウォーキングイベントという、いわゆるスポーツツーリズムとして位置付けたイベントを行いました。県外・市外の方を中心に320人の方が橋本市に来ていただいて、これも実は、もっと応募があったんですけど、いろんなキャパの関係で320人にさせていただいたんですけど、ただただ、いろんなところ、名所巡りをしながら、また、食べるころへ寄っていただきながら、国城のほうにまで上がってもらったんですけど、そういったところ、要所要所を見ていきながら、ウォーキング15キロコースと5キロコースを実施しました。

その際に、ワールドカップに2回出場したディフェンダーの秋田選手と箕島高校で連覇優勝した石井投手、今、木村選手といわれるんですけど、西部時代にも優勝されたそういう選手に来ていただいて、非常に全体としてのPR効果があったと思います。奈良県のイオンのほうでもPRしていただいたので、非常にたくさんのイオンのお客さまが来ていただきました。そういったことも、たとえスポーツ施設がなくても、スポーツツーリズムに私はつながっていくんじゃないかというふうに考えております。

冒頭、地方創生で、また、議案審議のときに補正で今提案させていただいておる内容につきましても、今年第1回に引き続いて第2回のウォーキングイベントを実施したいと、

そういう思いでの提案でございます。

以上でございます。

○議長（中本正人君） 教育長。

○教育長（小林俊治君） 議員のご質問にお答えします。

今年度、紀の国わかやま国体につきましては、橋本市の小学生、中学生がバレー・サッカー競技を見せていただきまして、ソフトボールも含めて、一緒になって応援する姿を私も見せていただきました。子どもたちはまさに感動をして、手をたたき、拍手を送り、声援を送って競技を見ておりました。きっと、子どもたちの多くが、生涯にわたって、その思い出を残して、スポーツ選手に対する憧れ、また、感動といいますか、感動する喜び、これを味わえたのではないかなと思っています。これもまさに、紀の国わかやま国体がこのような形で本市で開催できたということによるものであると思っています。

議員の今後の、いわゆるオリンピックに向けて、また、ナショナルチームの誘致、もっとその以前に、大学生であるとか、社会人であるとかのプレーを子どもたちに見せることによる教育的効果につきましては、やはり同じことが言えると思っています。

ただ、今回の紀の国わかやま国体につきましては、1学級なり、1学年なりが一緒に見に行くというスタンスでございましたけども、今後、子どもたちの趣味や、いわゆる、自分の意欲によってその競技を見に行くことが、より一層、子どもたちの、いわゆる生活につながるものである、そのように実感しております。そういう意味でいうと、大変貴重な体験を子どもたちは味わうことになる、そのように思います。

○議長（中本正人君） 5番 坂口君、再質問ありますか。

5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君） ありがとうございます。結論から伺ってまいりました。経済効果、あるいは教育的効果は間違いなくあると、後ろ向きなご答弁は一切ありませんでしたので、ですから、ナショナルチームを誘致することによりまして本市のデメリットはあまり出てまいりませんでしたので、やれば、これは本市の利益になるよというようなお話、まず結論から確定付けまして、1項目めに戻ってまいります。

経済産業省が、2020東京五輪に向けまして、いろいろな東京オリンピック活用、パラリンピック活用の意義について示してございます。世界中の視線が日本に向かう絶好の機会、すなわちスポーツに関係するか否かにかかわらず、地域企業の魅力や実力を世界にPRするまたとないチャンス。競技会場や事前キャンプ地といった直接の関係地域、企業でなくとも、このチャンスをうまく活用できれば、莫大な宣伝効果が得られる。

他方、待っているだけでは、この機会を現実の勝機にはできないと、経済産業省がこのような指導をされています。その中の一つとして、先ほどお尋ねしました1項目めに戻りますけれども、2020年を活用した地域活性化の取り組みを検討する、東京五輪・パラリンピック地域活性化推進首長連合、市長連合が設立された。これ、新潟県の三条市が音頭を取ってやっているんですけども、350の有志が既に名前を挙げております。昨年12月10日現在で350の市や町です。271の市、そして、67の町、そして、12の村ということです。

和歌山県で見ますと、和歌山市、海南市、有田市、近隣では、かつらぎ町、高野町、南紀のほうでは白浜町、上富田町といったところが名前を連ねています。別に、任意団体ですから、入ってくださいというお願いじゃないんですよ。何で入っていないんですかとい

う、そういったシンプルな質問でございました。ですから、私のお願いごとが、先ほども冒頭から何回も申し上げているように入っても入らなくてもいいんですけれども、広域でやっていかないといけない、東京五輪の地域の活性化、少なくとも隣、大きなスポーツ施設のないかつらぎ町、高野町が名前を挙げています。本市がなぜ、手を挙げていないのかというふうに、シンプルな疑問に思っただけです。入っていただかなくても入らなくても、それは結構だと思うんですけれども、経済産業省が、少なくとも2020を絶好の機会にしましょうというように提唱しているわけですから、何らかの施策を練っていただきたいというふうに思います。

ちなみに、いろいろともう既にいろいろな自治体が、この施策を打っています。例えば、商店街等における訪日観光客取り込みに向けた取り組み、もちろん、Wi-Fiの無料設置はそうなんです、英語、ちょっと通じます商店街といったような、こういったアイデア、ほんの少しのアイデアでおもてなしを具現化しようという、そういった自治体も出始めております。ちょっとしたことなんですけれども、本市としても何かこういった取り組みができないかどうか。

はしもとブランドの推進、はしもとブランドの発信、シティーセールスもこれからどんどん橋本市を売っていただきたい。そのためにはこの好機を何としても成功に導いていただきたい。あと3年先、4年先と言っていましたら、あっという間に時が流れちゃいますよ。

今、教育次長のお話では、例えば、スポーツコミッションのお話でも、検討するだけ、機能しているかどうかということをお尋ねしているんですけれども、教育次長、もう少しちょっと踏み込んでお話を伺いたいと思うん

ですけれども、以前、同僚議員が一般質問でもされていますけれども、そのときと同じように思うんですけれども、機能しているのかどうか。機能しているのであれば、どのようにオリンピック誘致に向けて、キャンプ地誘致に向けて機能をしているのか、大学生、社会人のキャンプ地誘致に向けて機能しているのか、そのところを何とか、もう少し詳しくお話ししていただけたら大変うれしゅうございます。

○議長（中本正人君）教育次長。

○教育次長（坂本安弘君）お答えをいたします。26年度、27年度とこういった質問を何回かいただいております、そのたびにいろんなことを検討させていただくと、スポーツ推進計画に基づいて実施させていきたいというようなことを、ご答弁は申し上げておりますが、現実として、いわゆる大学生、社会人のキャンプなり合宿が、実績として伸びていないのが現実でございます。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）次長、その原因は何でしょうか。せんだって、上富田町に行きましたときに、生涯学習課の職員の方は、積極的に旅行会社であったりとか、そういったところにキャンプ地誘致の話を持って行って、それだけにはとどまらず、上富田町の職員自らが、旅行業務取扱主任資格者の資格をとろうという、そういった勉強もされていると、そんなふうには伺いました。積極的な営業活動はされていらっしゃるかどうか、そのところが非常に大事でございます。

棚から餅が降ってくるように思っているのか、積極的に、やはり、これ、自治体間の競争になっていると思いますよ。同じような体育施設は全国いくらでもあると思います。関西空港から1時間圏内です。間違いなく利便性のいいところです。その利便性を



生かした誘致活動というのが、きっと功を奏すすと思います。そのための営業活動、ロビー活動というのは、もしできていないのであればそれで結構ですけれども、今後どのようにされていこうと思われているのか、戦略的なお話をちょっとでもしていただけたら大変うれしゅうございます。いかがでしょうか。

○議長（中本正人君）教育長。

○教育長（小林俊治君）議員、今おっしゃられたとおり、土地の利便性等もでございます。ただ、上富田町は上富田町独自の、いわゆる施設や観光風土も持っていることも事実です。橋本市の持っている、いわゆる資源を、再度点検しながら、経済部とも連携して、先ほどお話しさせていただいたとおり、連携して、進められるところは進めていきたいと。ただ、橋本市の、いわゆる持っている資源の活用という形で進めていきたいと、このように思っています。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございました。もうこれ以上、教育長にお伺いすることはありませんから。

ただ、もう一つ、お話を伺いたいの、全てのチャンネルを生かした誘致活動をしているのかどうかということをお伺いします。橋本市は、アメリカカリフォルニア州のロナ・パーク市と30年以上のおつき合いがありますけれども、このチャンネルを生かしているのかどうか。このロナ・パーク市に全米に通じるスポーツ関係者、あるいは、ネットワークがあるのかどうか。ここのとこりと接触をして、誘致活動をされているのかどうか、伺います。担当室は、企画部ですか、企画経営室ですか、もし、お答えいただいたら。やっているのかどうかと、もしやっていないのであれば、その理由。もしやっていらっしゃるのであれば、その進捗状況、お願いいたします。

○議長（中本正人君）企画経営室長。

○企画経営室長（上田力也君）現在のところは、そういった活動はいたしておりません。その理由なんですけれども、やはり、まず今後、姉妹都市に情報を、あるいは営業をしていくということになりますと、具体的なこちらから提供できるネタというのが必要になってくると考えています。ですから、橋本市はどのような競技を誘致したい、あるいは誘致の規模はどれぐらいという、そういったところが整った段階で営業活動をしていくという、そういう方法が考えられますので、その時期等について、あるいはどういうふうな誘致メニューといたしますか、そのあたりが固まった段階で検討はしてまいります。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございました。まだ何もおやりになっていらっしゃらないということですね。30年以上の姉妹都市ですから、税金も投入して友好交流団も派遣されていますから、おつ合いされている方もいらっしゃると思いますね。英語の堪能な職員もいらっしゃるでしょう。国際電話1本で、いろんな情報をとれると思います。まず、事前調査、ぜひなさっていただけたらなというふうに思いますけれども、何かございますか。はい、どうぞ。

○議長（中本正人君）企画経営室長。

○企画経営室長（上田力也君）メールのほうで、ロナ・パーク市のほうへは、オリンピックの、しばらくは次のリオしか見ていないかもわかりませんが、さらにその次の東京オリンピックに関する、選手であるとか、監督であるとか、そういったところについては、メールで紹介の案内はさせていただいております。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）さすが、企画経営室長、

抜かりありませんね。メールでもう既におやりいただいていたんですね。失礼いたしました。

まだ、競技の話がされていましたが、どの競技かというようなこと、これはやっぱり戦略的にお考えいただかないと。だって、持っている施設は限られているじゃないですか。県立体育館、それから、競技場、プール、限られていますから、ある程度、スポーツというのは限定されてくると思いますけれども、いろんなスポーツの中でも、馬術するわけにいきませんから。それはある程度絞られると思いますよ。ここは、教育次長にお尋ねしたらいいんでしょうか。持っているスポーツ施設というのは決まっていますから、ある程度競技は絞られてくると思うんですが、そういったところのスポーツ団体のネットワーク、いわゆる団体の長であったりとか、役員であったりとか、そういったところと接触をさせていらっしゃるのかどうか、お尋ねします。

○議長（中本正人君）教育次長。

○教育次長（坂本安弘君）キャンプの誘致とかという意味でございますか。現在のところ、そういった取り組みは実施できておりません。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございました。橋本創生総合戦略でも本当に掲げていらっしゃるのので、私、とても楽しみにしているんですよ。2020年オリンピック・パラリンピック東京大会開催にあたり、選手団のトレーニングキャンプ地誘致を行う、また、そのほか、大型スポーツイベントの誘致やキャンプ地等に利用できる施設の洗い出し、また、各団体等へのニーズ調査を行い、書いていますよ、ここに。しっかりと書いています。橋本市会場とマッチングしたスポーツイベントの実施を行う。ここにちゃんと書いてあります。私はとても楽しみにしています。

2020年、2019年、日本中が東京オリンピック一色に沸きます。前畑秀子が、ひょっとされると、放送されるかもしれません。2019年、2020年、ぜひ、このオリンピックの地域活性化の波に乗り遅れないように、橋本市は知恵を絞っていただきたいなど、こんなふうに思います。

一つだけ、ヒントを申し上げます。私もいろいろとない頭で知恵を絞りました。バスケットボールが今、一番可能性が高いんじゃないかと思います。ジェリコ・パブリセビッチって、教育次長、ご存じですか。元日本のバスケットボールのヘッドコーチもされた方でいらっしゃいますね。バスケットボールでは、監督と言わないんですね。ヘッドコーチと言っています。それと、和歌山トライアングルの初代ヘッドコーチです。

和歌山県のバスケットボール協会の理事で、和歌山トライアングルの創設者の方と、せんだってお話をさせていただきました。ナショナルチームのキャンプ地誘致の話をしていただいたら、橋本市が積極的に手を挙げていただいたら、日本のバスケットボール協会と話をさせていただきたい。ジェリコ・パブリセビッチとも電話1本で連絡がとれる方です。クロアチアのプロバスケットボールの指導者です。ヘッドコーチです。こういった人脈を生かして、ぜひ、誘致活動、ロビー活動を積極的に行っていただきたいと思います。その和歌山県のバスケットボール協会の理事の方のお名前をここで申し上げるわけにはいきませんが、そういったチャンネルを全て生かしていただきたいというふうをお願いをしまして、2項目目の大きな朝ドラ誘致のお話もありますので、このあたりで、1項目目の大きな質問を終わらせていただきます。

○議長（中本正人君）次に、質問項目2、(仮称)前畑秀子物語・NHK朝ドラ誘致活動に

ついでに進捗と今後の指針に対する答弁を求めます。

教育次長。

〔教育次長（坂本安弘君）登壇〕

○教育次長（坂本安弘君）前畑秀子物語・NHK朝ドラ誘致活動についての進捗と、今後の方針についてお答えします。

平成27年6月橋本市市議会定例会において、議員より、前畑秀子朝ドラ誘致に関する一般質問を受け、本市においても、前畑秀子朝ドラ誘致実行委員会が立ち上がり、平木市長も東京のNHK放送センターに朝ドラ誘致を働きかけるなど、積極的な誘致活動を行っているところであります。

前畑秀子さんは、橋本市のご出身で、15歳から名古屋市の椛山女学園で水泳をされ、昭和11年ベルリンオリンピックで、日本人女性初のオリンピック金メダルを獲得されました。その後、22歳で兵頭正彦さんと結婚し、晩年は岐阜市で過ごされ、名古屋市、岐阜市とも深いかわりがあります。

本年2月2日に、岐阜市の細江市長と職員2名並びに市議会議員4名が、来年開催される「織田信長公岐阜城入城・岐阜命名450年」のイベントの開催に先立ち、信長公の孫にあたる織田秀信公終えんの地である本市を訪問されました。その際に、前畑秀子さんの朝ドラ誘致について説明をするとともに、双方で協力していくことを確認しました。

また、2月4日には、平木市長が名古屋市役所で河村市長と面会し、前畑秀子朝ドラ誘致に対する名古屋市の協力をお願いした結果、協力をいただくことになりました。

その後、2月22日と23日には、名古屋市議会議員3名と職員2名が、また、岐阜市議会議員4名が本市を訪れ、前畑秀子さんゆかりの地と郷土資料館の前畑秀子さんに関する資料を見学されました。

このたび、名古屋市と岐阜市との協力を得ることとなり、今後は本市朝ドラ誘致実行委員会の活動とともに、行政間においても連携を密にし、朝ドラ誘致に向けた積極的な取り組みを進めてまいります。

○議長（中本正人君）5番 坂口君、再質問ありますか。

5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございました。

本当になかなか進めていただいているようで、安心をいたしました。皆さんにも進捗状況等も知っていただこうと思ひまして、このような質問をしたんですが、実は、このタイミングで、3月3日、名古屋の岩本たかひろ議員がこのような質問をされています。これね、ご自分の質問書と、それから、市長の答弁書を岩本議員ご自身が送ってきたんですよ。それから、きのうの夜でしたか、岐阜の信田議員も河村市長の答弁書を私に送ってきました。ですから、いかに岐阜、そして名古屋の議員が、橋本市に注目をしているのかというのがおわかりいただけるんじゃないかと思ひます。

岩本たかひろ議員はこのような質問をされています。「本市名古屋市も、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、本市を舞台とした朝ドラが誘致実現できれば、名古屋市が舞台となる初めての朝ドラとなり、名古屋市を全国に発信する絶好の機会となるはずです。議会としても取り組みを進めていきますけれども、行政としても署名活動のほか、前畑さんに関する資料やエピソードのほり起こしを行うなど、関係する3市でしっかりと連携を進めていく必要があるんじゃないでしょうか」という、このような質問をされました。

平木市長もお会いされたと思うんですが、

名古屋市の河村市長は、これに対してこのような答弁をされています。「前畑秀子さんの話でございますが、これはどえりゃあいい話でございます、ぜひ、紀の川で泳いだという記憶は非常に重要でございます、この前も橋本市の市長がお見えになった際も、ぜひ応援します、橋本市が中心となってプロジェクトチームをつくってちょうと、全力となってそれを支えますよという、そんなふうに言っております、ぜひ、これは早くプロジェクトチームをつくって、1人の女性の勇氣ある活躍の道ですね、これ、大いに日本中、世界中に広げていきたいと思っております」という、このような河村市長の答弁書、これ、岩本たかひろ議員が私に送っていただきました。このような発言なんですが、橋本市が中心となって、プロジェクトチームをつくってちょうという河村たかし市長のお話なんですけれども、これについてはどのようにお考えになっていらっしゃるでしょうか。

○議長（中本正人君）教育次長。

○教育次長（坂本安弘君）私も事前に情報をいただきまして、名古屋市議会の状況を録画放送ですけれども、見せていただきました。確かに、橋本市が中心となってプロジェクトチームをつくってというようなお話がありましたが、市長が名古屋市を、河村市長を訪問されたときにも、そのお話をいただいておりますというふうに聞かせていただいております、その後、まだ事務局レベルですけれども、企画部と経済部と、それから、教育委員会、それから、議員活動も積極的にやっておりますので、議会事務局も含んだプロジェクトチームを立ち上げていく準備を進めております。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）そうなんです。まだ後ろ向きなご答弁があるかと思ひまして、そ

れに反証するような資料をいっぱい持っていたんですけれども、そうですか、プロジェクトチームをつくっていただけるんですか、次長。ありがとうございます。岐阜、名古屋も本当に心待ちにしていると思います。名古屋の河村市長も、本当に全力で支えますよとおっしゃっています。岐阜の市議会議員連盟の方、これは有志で議員連盟を立ち上げているんですけれども、橋本市がやってくれたら、あと、また我々もついていきますよという、そんな話もされておりました。

ちなみに、名古屋市は来月4月に、日本選手権の水泳競技大会で、前畑さんの企画展を行うというようになっていきますね。河村市長も、イベントをどんどんやれよというような話もされています。ですから、これは本市としても、そこまでに何とかプロジェクトチームを立ち上げて、名古屋と連携をできるような、そんな体制をとっていただきたいというふうに思っております。そうですか、プロジェクトチームをつくっていただけるんですか。

それでは、もう再質問は全くないんですけれども、企画部長も今年最後になるというふうに聞いているんですけれども、企画部長もいご答弁をされておりました。専門部署の設置については、誘致実現の可能性などの動向を注視しながら、機会を逃すことのないように適切な時期にプロジェクトとして設置をしますよという、そういったご答弁をいただいております。企画部長、本当にそのようになりました。ありがとうございます。本当に長い間、お疲れさまでございました。本当に、27年の9月議会で、企画部長がこのようなご答弁をいただきまして、そのとおりになりました。プロジェクトチームをつくっていただけますか。これで、私も名古屋の皆さんも、本当に安堵したと思います。

時間もあと11分26秒もありますけれども、このあたりで一般質問を終わらせたいと思うんですが、ちなみに、私、ずっと言い続けておりました、朝ドラジャンボ宝くじ。これは、なかなか、坂口さん、当たるんかというような方がたくさんいらっしゃいます。橋本市の人口が6万5,000人、岐阜が42万人、名古屋が229万人です。橋本市が朝ドラジャンボ宝くじ1枚と換算しますと、岐阜が7枚、名古屋が35枚になります。合計43枚。ジャンボ宝くじ43枚買えば、必ず1等から6等まで当たります。どうぞご安心ください。1等から6等まで必ず当たるジャンボ宝くじです。岐阜、そして、名古屋の皆さんに感謝をお伝えしながら、私の一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（中本正人君）5番 坂口君の一般質問は終わりました。

---

○議長（中本正人君）お諮りいたします。

本日の会議はこの程度にとどめ、延会し、明3月9日午前9時30分から会議を開くことにいたしたいと思います。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中本正人君）ご異議なしと認めます。

よって、そのように決しました。

本日は、これにて延会いたします。ご苦労さまでした。

（午後4時20分 延会）